

日興エコファンド

追加型投信／国内／株式

ファンドの概要

設定日 1999年8月20日
償還日 2024年8月19日※
決算日 原則8月19日
収益分配 決算日毎
※2023年11月22日付で信託期間を「無期限」に変更予定です。

ファンドの特色

- 「環境問題への対応が優れている企業」および「環境ビジネスにおける優良企業」の株式を中心に投資を行ないます。
- 企業の環境対応度に関しては、日本でのエコ調査の先駆者である「グッドバンカー社」が調査・分析を行ないます。
- 中長期的な観点から、わが国の株式市場全体（東証株価指数）の動きを上回る投資成果の獲得をめざします。

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<基準価額の推移>



※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。
基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。
※設定日の前営業日を10,000として指数化しています。
※TOPIXに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は株式会社J P X 総研または株式会社J P X 総研の関連会社に帰属します。

基準価額 : 13,694円

純資産総額 : 70.50億円

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	3.69%	2.68%	4.30%	38.98%	36.94%
TOPIX	4.16%	6.64%	8.31%	40.54%	39.46%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金実績（税引前）>

第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
2018/8/20	2019/8/19	2020/8/19	2021/8/19	2022/8/19
0円	0円	0円	0円	0円

※上記は過去のものであり、将来の収益分配を約束するものではありません。

運用成果について

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

4月の国内株式市場は、米国の経済指標が市場予想を下回り、米国景気の減速懸念が強まったことなどが株価の重しとなったものの、日銀新総裁が就任会見にて現行の金融緩和政策を継続する考えを示したことや、為替が円安／アメリカドル高水準で推移し輸出企業の業績改善が期待されたこと、国内企業の概ね堅調な決算内容を受けて投資家心理が改善したこと、日銀が金融政策決定会合で現行の金融緩和政策を維持したことなどから、国内株式市場は上昇しました。月末の東証株価指数（TOPIX）は前月末比プラス2.69%の上昇となりました。

当ファンドでは、経営戦略における環境の位置づけ、製造工程における環境負荷低減策、製品やサービスによる環境への貢献など、環境対策への取り組みが進んでいる企業から銘柄を選別しています。今月は一部の化学株や機械株等を売却した一方、サービス株や電気機器株等を買付けました。基準価額は、金融株の保有ウエイトが相対的に低い点などがマイナスに寄与したため、TOPIXを下回りました。

◎今後の見通し

引き続き金利・物価の見通しが株式相場に与える影響が大きい状況が継続しており、各国中央銀行の金融政策に注目が集まっている状況です。堅調な労働需給等を背景に根強いインフレ環境が継続している中、欧米の一部金融機関の経営不安も生じております。一方日本では、日銀総裁交代に伴い新総裁の金融政策見通しの動向が注目される状況です。上述の通り、現時点では日銀は金融緩和政策を維持する方針ですが、いずれ政策修正されるのではないかと見立てもあります。また実体経済面では、コロナ特需の剥落やインフレによる実質所得へのマイナス影響、先行きに対して過度に楽観視することは難しいと捉えておりますが、日本および中国ではコロナ禍からの経済活動の回復が期待でき、地域ごとに景況感は濃淡が出る可能性があります。このように、金融環境および実体経済ともに方向感を掴みにくい状況が継続するのではないかと考えております。外部環境の不確実性が大きいとみる中、引き続き当ファンドでは、最終需要やコスト環境に対して機敏に対応できる企業と、取り組みが遅れている企業との業績格差は一層拡大するのではないかと考えています。このような認識の下、環境対策への取り組みが進んでいる企業への投資と適切なリスク管理によって、パフォーマンスを積み重ねてまいります。

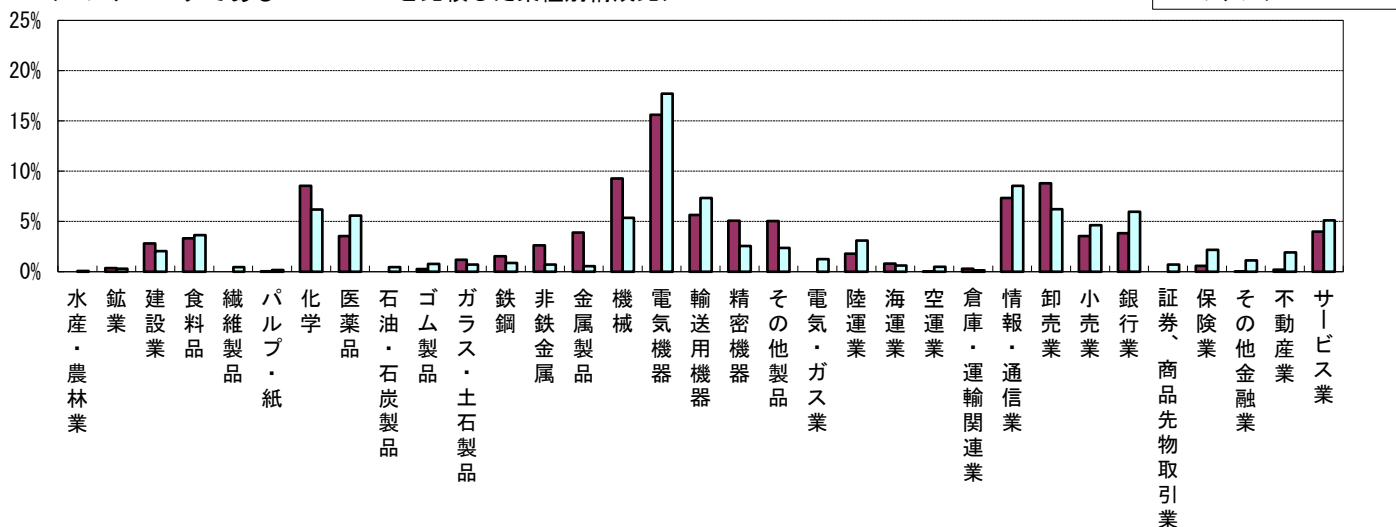
投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの内容

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比率」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。
 ※「業種別構成比」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

<ベンチマークであるTOPIXと比較した業種別構成比>



※上記グラフは、ファンドが保有している株式の業種別比率とTOPIXの業種別比率を比較したものです。当ファンドが、どの業種の比重を高めているかをお知らせするためのものです。

<資産構成比率>

株式	97.4%
うち先物	0.0%
現金その他	2.6%

<株式組入上位10銘柄> (銘柄数 108銘柄)

順位	銘柄	業種	比率
1	岩谷産業	卸売業	3.83%
2	エフピコ	化学	3.62%
3	リンナイ	金属製品	2.88%
4	日立製作所	電気機器	2.71%
5	三菱重工業	機械	2.56%
6	トヨタ自動車	輸送用機器	2.48%
7	アシックス	その他製品	2.35%
8	オリンパス	精密機器	2.27%
9	日本電信電話	情報・通信業	2.16%
10	野村総合研究所	情報・通信業	2.12%

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

エコ・トピックス

【アマノ】

情報システム・時間管理機器、パーキングシステム、環境システム、クリーンシステムを展開するメーカー。当社は、2022年4月に持続可能な社会の実現に向けた取り組みの推進と企業価値の向上との両立を目指すため、「サステナビリティ委員会」を設立しました。CO2排出量 (Scope 1 + 2) の削減目標として、2030年度に2013年度基準で46%削減するとの目標を設定しました。エアコン、はんだ付けを行うリフロー炉・変電設備などの機器更新による省エネ対策や、照明のLED化、適切な空調温度の設定など、地道な省エネ活動を行っています。営業・サービス部門は、2007年度から各エリア拠点での環境負荷データ (電気・ガス・ガソリン等燃料、水道使用量ほか) の収集を始め、数値把握を実施し、節電・省エネ活動を徹底しています。社用車のガソリン・軽油については、2018年8月から社内で保有する約700台の車両にテレマティクスシステムを導入し、急発進・急減速・速度超過等の運転状況の見える化によるエコドライブの意識向上などを図っています。これらの取り組みの結果、2021年度のCO2排出量 (Scope 1 + 2) は2013年度比36.3%減となり、2021年度のガソリン使用量は同51.3%減となりました。

また自社製品に対しては、省エネ性、省資源 (リデュース、リユース、リサイクル)、安全性、環境負荷化学物質管理などを考慮した、環境配慮型設計の推進をしています。金属切削工程で発生するオイルミストを捕集する電気集塵機「EM-8eIII」は、放電によりオイルミストを吸着・捕集するフィルターレス方式のため、廃棄物が発生しません。電気集塵の心臓部である放電部を「針式」から「ブラシ式」に変更し放電ポイントを増やしたことで、電極のメンテナンスサイクルの延命と耐久性の向上を実現したほか、フィルターレスのために圧力損失も低く省エネ性が高いという特徴があります。また、駐車券の代わりに、ナンバープレートを活用して車両管理や駐車料金の徴収を行うチケットレス駐車料金精算機「GT-4100」は、駐車券やインクリボンなどの消耗品を使用しないために廃棄物削減に貢献しています。

(環境問題にまつわるテーマや企業の取り組みなどをご紹介します。「エコ・トピックス」で採り上げた企業を当ファンドが保有しているとは限りません。)

投資信託は、値動きのある資産 (外貨建資産は為替変動リスクもあります。) を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2024年8月19日まで（1999年8月20日設定） ※2023年11月22日付で信託期間を「無期限」に変更予定です。
決算日	毎年8月19日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し2.2%（税抜2%）以内

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 換金時の基準価額に対し0.5%

<信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>

運用管理費用（信託報酬） ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.65%（税抜1.5%）

その他の費用・手数料 監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社

投資顧問会社 株式会社グッドバンカー

受託会社 三井住友信託銀行株式会社

販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。

日興アセットマネジメント株式会社

〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/

〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

当資料は、投資者の皆様に「日興エコファンド」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○		○	
株式会社伊予銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第3号	○			
a.u.カブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○			
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第5号	○	○		
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第117号	○		○	
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○			
光世証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第14号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第21号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○	
株式会社大東銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第17号	○			
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社筑波銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第44号	○			
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社徳島大正銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第10号	○			
株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第57号	○			
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社肥後銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社)	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○		
フィリップ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第127号	○		○	
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第18号	○			
株式会社福邦銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第8号	○			
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社北洋銀行 (委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社)	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第5号	○			
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第12号	○		○	
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○		○	
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。